

## 権力を取らずに世界を変える！

—ブラジルのベーシック・インカム支給実験プロジェクト訪問、2011年9月—

岡野内 正

<世界はここから変わる！>

仕事場の白壁に何か書けといわれて、いろいろな言語のメッセージ落書きで埋められた壁にそう書いた。…世界はここから変わる。The world will change from here!

30歳の若いママ、ベーシック・インカム支給実験プロジェクト実施団体の代表者ブルーナは、35歳のパートナー、その団体の中心人物でもあるマルコスをわざわざ呼び、二人でこのことばをえらく喜んでくれた。お世辞ではなく、本当にそう思う。

生後半年ほどの二人の娘ソフィアちゃんをかかえて、家族や友人そして自らのポケットマネーから募金を集め、さらに無給ボランティアとして、人権としてのベーシック・インカムを村人に支給するプロジェクトに全身全霊で打ち込む若いカップルの出現。…うん、たしかに。政治が悪いとか、政府なんとかしろ、とか叫ぶのはいいのだけど、同時に、自分たちでできることから、やっちゃえばいいのよね。簡単なことだけど、これって、人類が新しい方向に踏み出しはじめたってということ。つまり、世界史的な革命の始まりじゃないかしら。

<ベーシック・インカム？>

すべての人が、人として、無条件に尊重されるべき。人権って、単純にいうと、そういう考え方じゃないかしら。とすれば、人として大事にされてるって思えるような生活を、みんなでお互いに保障しあうのが正しいこと。つまり、人としての義務ってことに。お金があれば、そんな生活が保障されるのなら、お金を渡してあげようよ。無条件にすべての個人に基本的な生活が保障されるだけのお金をずっと渡してあげること。人権を守るっていうのは、そういうことも入ってなきゃ。お互いどうし、すてきなママ、パパ、おばあ、おじいになって、ずっと仕送りを送る。そうやって、一生かけて、人間を磨いてもらおうや。これが、ベーシック・インカムの考え方だ。

勤労の義務とか、「働かざる者食うべからず」、なんていういかにも経済的な、ケチな発想は、そこにはない。人権は、太っ腹。人権っていうのは、豊かな社会の発想なのだ。いや、豊かさこそが人権なのかも。豊かなことって、人権を保障できる余裕があるってということ。地球上の人類は、ほんとうはそこまで豊かになってしまった。だって、衣食住エネルギーの基本生活物資は地球全体でみれば人類全部を養えるだけあって、もっともっと作る力も。ただ、人々の気持ち追いついていけなくて。だから、飢えや欠乏の恐怖にかられて、つい

つい自分もがむしゃらに働き、人をそんなに働かせようとしてしまう。そして、人よりモノが大事だなんて思っちゃう。…

<人として正しいことをする気持ちよさ>

人権は英語では、**Human Rights**、これは、人として正しいことども、とも訳せる。すべての人に生活保障のお金を渡すことが、人権であり、人として正しいことなら、お金を渡さないことは、人権侵害を前に何もしていないでいること。つまり、人として間違っていることになる。…日本国憲法や、世界人権宣言、国際人権規約にある「人権」っていうことば、そんなふうにして、人類ひとりひとりに、人としての生き方を厳しく問いかけてくる。そういう意味では、生易しいものじゃない。

ブラジルは、2004年の法律で、ベーシック・インカムを導入することを決めた。すべての国民が、生活保障として現金支給を受ける権利を人権として保障することを宣言した。世界史的な意義を持つ法律だ。それなのに政府はいつまでたっても、実施細則を出さない。そうやって政府が実現に手間取っている間にも、ブラジル社会の底辺の人々は、貧困ゆえに、次々と命を落としていく。…それはないよ。一刻も早く実施しようよ。人として恥ずかしくないの？…わかった。じゃあ、私たちで始めるから、政府は、後に続いてね！

ブルーナやマルコスたちの立場はこうなるだろう。それが、なんともすがすがしい。

<ゼミ調査研修旅行>

昨年夏のナミビアのベーシック・インカム実験プロジェクト現地訪問に続いて、二度目の遠距離3週間弱長期旅行。10名ほどの学生のうち4名は、昨年のナミビアと同じメンバー。若くして、人類史上画期的な二つの社会実験プロジェクトを訪問するという幸運な人に。私が知る限り、世界のベーシック・インカム研究者の中でも、両プロジェクトを現地訪問したのは、数名だけ。もちろん、日本では、初めてのこと。

ナミビアの場合もそうだったが、今度も、日本からの大学チームの訪問は、現地にとって一大事件。学生諸君は、村の子供たちとサッカーや折り紙で遊び、ベーシック・インカムのミーティングで集まった村人の前でよさこいソーランや、阿波踊りを披露してともに舞い、村人も、ブルーナたちも大喜び。「文化の力だね！公共圏の集まりでの文化的な要素の大事さは、理論的にはわかっていたのだけど、具体的なイメージがわかなくて。いつも、味気ない話し合いだけで終わっていたんだ。集団で、あんなに楽しそうな村人の姿を見るのは初めてだよ。」とマルコス。村のじいさんには、阿波踊りが大人気。子供たちにはソ

ーラン。音源 CD を入れた村訪問のレンタカーの近くによってきて、繰り返し踊り練習をせがんでいた小学生くらいの子供たち。いよいよ別れるときになって、一人の女の子がブルーナに泣きながら訴える。「日本の人たち、次はいつ来るの？だって、もっともっと踊りたいんだもの！」

#### <カチンガ・ベério>

カチンガ・ベérioというその村が、ポルトガル植民地時代にまでさかのぼるものかどうかはわからない。先住民を追い出して造られた大土地所有者農園の労働力として、半ば奴隷のような暮らしを送っていた貧しいヨーロッパ系移民やその子孫たちの古い集落であつたらしい。いまでは神父さまもない小さなカトリック教会の建物は、たまのお祭りのときに開けられるだけという。…ベーシック・インカム支給プロジェクトが始まって、近所の人々はそのお金を出し合って屋根を直した、とか。

ベérioとは、ポルトガル語で「古い」という意味。反対語の「新しい」はノーヴォという。学校や役所は、新しいカチンガ、すなわちカチンガ・ノーヴォのほうにあつて、村人は、ショッピングや選挙の投票（出身者のみ）など、なにかとカチンガ・ノーヴォのほうに行く。つまり、カチンガ・ベérioは、ほとんど集落としての体をなしていない。

大都市サンパウロまで車でハイウェイを飛ばして3時間くらいという立地条件を生かして、都市向けの野菜生産農家として成功している日系移民たちが多くいるという。やはり奴隷的な農場労働を経て苦勞の末に土地を買い取ったものだという。そんな日系人農場の敷地内の小屋に住んで働く欧米系の労働者家族もかなり。

#### <なぜカチンガ・ベério？>

ナミビアの村のように、慎重に選んだのではなく、まったく成り行きだという。ブルーナたちは、カチンガ・ベérioから山一つ越えた古い鉄道拠点の町、パラナピアカーバの市民自治活性化とそのためのベーシック・インカム導入を支援するために移住してきた。当初は、とんとん拍子に話が進み、ブラジル政府に先駆けて、ベーシック・インカム導入を具体化する町になりそうだった。

ところが、この地域のある有力政治家が、横やりを入れた。所得制限のある貧困家庭への給付であれば、受給のあつせんをすれば、自分の得票につながるが、普遍的な給付であれば、得票につながらない。それを恐れたためではないかと、マルコスが分析する。町の世論が盛り上がったところでのこの挫折を苦々しく思った人も多くいたらしい。自腹を切つて、募金を集めてでも、支給実験を開始して、ベーシック・インカム導入が市民自治の力を高めることを、事実

でもってブラジルの世論に訴えたい。そんなマルコスやブルーナの熱意に共感した人が、知り合いがいるこの集落はどう？と紹介してくれた。それが、カチンガ・ベérioだったという。

<自治のコミュニティ造りとともに>

ブルーナとマルコスたちの団体の名前は、ブラジル風のポルトガル語発音で「ヘシビータス (RECIVITAS)」。ラテン語起源のニュアンスは、「市民社会の再建」といった意味。…大学で哲学を専攻し、いまは高等教育機関で教えるマルコスが、ベーシック・インカム導入に込める思いは、気宇壮大で、かつ用意周到なものだ。

酔狂な金持ちが配るお金ではなくて、権利として、人権保障としてのお金。そんな権利としてのお金の獲得は、人々がお互いに力を合わせて、お互いの自由を尊重しながら守っていくべきこと。そんなことを、マルコスは、村の受給者ミーティングでいささか生硬な言語で演説する。同時に、村を回る自家用車のトランクを共同の移動図書館、共同の移動おもちゃ箱にして、村人を引きつけながら、体でもって、分かち合いの楽しさ、おもしろさを体験させている。ブルーナたちの車のトランクは魔法の箱になって、農場とジャングルに囲まれた村人たちの住居に次々と、新しい本やおもちゃをもってきてくれる。しかし、それらは、みんなのもので、村人は、そのおもしろさをたがいに分かちあう。…われわれも目撃したが、村人のなかには、自分が入手して子供たちがもう飽きてしまったおもちゃを共同おもちゃ箱に寄付する人も。そうすることで、コミュニティのメンバーは、マルコスたちが集めてきたおもちゃに、それぞれの入手したおもちゃを加えて、村人たちの子供全体の楽しみを増やすことができるのだ。

<食べるだけでせいっぱいの人々>

自分が食べるだけでせいっぱいの人々には、村人全体のことを考える余裕はない。カチンガ・ベérioでも、多くの方は、そうだった。しかし、子供が大きくなって、少し生活に余裕のできた若干の老人は違う。マルコスたちが入る前から、道に街灯をつけるように要求する署名運動をやった老人もいた。訪れたヘシビータスのメンバーに、いつも自家製の果実酒をふるまってくれる彼は、一私はそれを勧められるままにおかわりしてかなりふらふらになったのだが、一ベーシック・インカム受給者の中でも、いまやリーダー的存在だ。

マルコスたちの工夫のひとつは、カチンガ・ベérioへのベーシック・インカム支給の原資の全体額を明らかにし、受給を望む人が現れた時には、受給者全体の合議で支給するかどうかを決定するとしたことだ。実際に、われわれが

訪問する以前の受給者ミーティングは、ベーシック・インカム支給額を若干減額して、新しい希望者に支給開始することを承認している。ベーシック・インカムの受給を選択した村人たちは、自分が食べることだけを考えることが許されない境遇に置かれてしまっているのだ。

#### <受給を拒否する人々>

カチंगा・ベリョに住む野菜作り農場主の日系人家族を始め、多くの裕福な村人たち、そして若干の貧困な人々は、受給を拒否したという。…人権としてのベーシック・インカムを説くマルコスたちとかかわるのを恐れたのかもしれない。ブラジルでは、軍事独裁政権時代の記憶はまだ生々しく、虐殺などにかかわった軍部の責任者も処罰されたわけではない。

あるいは、大都市の物価が日本とそれほど変わらないところで、日本円にして月に1千円ちょっとという、ベーシック・インカムというには、あまりに小額のお金の支給を喜ぶほど、この村人は貧しくないのかもしれない。ナミビアの場合のように、受給開始後に子供の栄養状態の劇的改善がみられたのは、わずかに1家族だけだった。ほんとうの掘立小屋に住んでいたその家族は、支給されたお金をなによりも子供の食糧代に充てたという。ほかの人々は、住居の改善に使ったというのに。…それにしても、異常にやせ細った手足のその家族の上の子供たちに比べて、すでに3年近くなるベーシック・インカム支給開始後に生まれたというよちよち歩きの下の幼児、最近生まれた乳児のふくよかさが印象的だった。

2008年10月にプロジェクトが開始されていろいろあったが、カチंगा・ベリョの中で、受給を決意したのは今では17家族90人ばかり。コミュニティとしての絆が薄く、集落の体をなさないだけでなく、そんな地域住民の全体をカバーしているわけでも決してない。ブルーナたちのベーシック・インカム支給プロジェクトは、そんなすでにコミュニティが崩壊した地域で、少しずつ地域住民の自治を再建しようという、気宇壮大だが、実態としては、ささやかな試みにすぎない。支給は、1か月に一度、紙袋に入れた現金を一軒ずつまわって、手渡しして家族からサインをもらうのだ。

#### <したたかなプロジェクト>

もっとも、逆にいえば、たった一家族とはいえ、ブラジルでも極貧家庭に対するベーシック・インカム支給の効力は証明され、そのうえさらに、極貧ではない家族に対するコミュニティ形成への効力、そして経済活性化の効力さえも証明されつつあると言える。おんぼろ車とはいえ、自家用車を持つ受給家族の一つは、農場主からの借地である自分の家の周辺の土地を使って、庭にバナナ

などの果樹を植え、鶏を育てている。マルコスたちとともに卵や果物などを売る朝市のようなローカルな農産物市場の開設を計画。我々が見学した受給者集会では、マルコスが、ベーシック・インカム支給額を元利償還にあてた額の資金を無担保で貸し付ける、マイクロ・クレジット計画を説明し、村人は、ベーシック・インカムの停止ではないことを確認して、導入に一步前進。

このような諸効果を報告書として次々に公表することによって、プロジェクトへの賛同者と支援の動きはさらに広がろうとしている。

#### <多国籍投資信託会社との提携>

厳重なセキュリティ・チェックで守られたサンパウロのオフィス街の高層ビルの会議室。スイス系の多国籍投資信託会社の投資担当。日本にも三度出張したことがあるというスーツの彼は、カチンガ・ベリョのプロジェクトのための資金を調達する社会貢献投資商品について、噛んで含めるように説明し、2時間近く、我々の質問につきあってくれた。…投資収益の半額を寄付に回す社会貢献投資商品への需要は十分にあること。すでにCSRとして、教育支援の財団を作っているが、膨大な直接間接の経費がかかる学校経営などと比べて、社会貢献プロジェクトとしてのカチンガ・ベリョのベーシック・インカム支給プロジェクトの費用便益効果は絶大であり、魅力的なこと。しかも、社会貢献投資商品は、投資家の社会貢献の手助けであり、会社にとって直接の出費となるわけではなく、むしろ事業ベースで進行できること。きっかけはブルーナの親戚からの話だが、こんないいプロジェクトを政治家が応援しないのなら、経済人として応援したい、と。

#### <若手弁護士の協力>

マルコスの知り合いの若手弁護士からも、サンパウロの高級ショッピングモールのカフェで話を聞いた。投資先の選択を考えめぐねているちょっとしたお金持ち投資家層のお金を社会貢献に使うしくみを作れないか。そこから、カチンガ・ベリョのプロジェクトのための資金を調達できないか。そんなマルコスたちの頼みを受けて、相当の調査の末によりやく提案されたのが、多国籍投資信託会社との提携だった。

ブラジル法の不備を説明する、いつもフィアンセとセットでくっついているイケメン弁護士の彼に聞いた。「ところで、マルコスたちの応援をすることになったのはどうして？」その答えはなかなか素敵だ。…これまでは、会社の顧問弁護士として働いて、弁護士になるための法科大学院に行くのに使った教育ローンの返済をせつせとやってきたんだ。でも、会社のために働くだけではつまらない。なにか、社会の役に立つことをしたいと思ったんだ、と。

### <両親たちの協力>

ゼロ歳の初孫ソフィアちゃんの面倒と、かわいい息子、娘が取り組むボランティア活動の応援に、すでに退職して年金生活のブルーナとマルコスのパパは、パラナピアカーバの家に住み込んで、プロジェクトに全面協力。

白くなったロン毛のマルコスのパパは、大企業の仕事を手掛けてきた会計士で、ヘンリータスの経理も担当。会計の本を執筆中とかで、いつもコンピューターに向かって座っている。マルコスが聞かせてくれた独裁政権時代の抵抗の歌を聴くと、目をうるませて顔をあげて叫ぶ。「民主化運動の歌だよ！」ママは、肝っ玉母さんで、村の人気者。

ブルーナのパパは、学生時代に父を亡くし、ずいぶん苦勞して、ちょっとした企業の社長になった人。サンパウロのある地域のロータリー・クラブの創設者。敬虔なカトリック信者で、ブラジルでは珍しいそうだが、家族でもひとりだけ、日曜には必ず教会へ。何人かの学生で彼にくっついてパラナピアカーバのカトリック教会のミサへ。聖書の一節に感極まってすすり泣く彼の横で、私も聖書の音読隊に加わって神妙に。ブルーナのママは、そんなパパといっしょに、二台のレンタカーを操って、霧深い山越えをしてカチンガ・ベリョへ、ハイウェイを飛ばしてサンパウロへ、そして彼女の親戚のリゾートマンションのあるビーチへと、私たちをあちこちへ。…ブルーナは、これまであまりプロジェクトにかかわってこなかった自分の両親が、これをきっかけにかかわってくれたと、喜ぶ。どちらの両親も、ブラジル独裁政権化の民主化運動世代なのだ。

### <他都市との連携>

パラナピアカーバでは失敗したが、ブラジルで唯一、ベーシック・インカム条例を作って基金を設置し、政府に先駆けてベーシック・インカム導入のかまえを示した町がある。サント・アントニオ・ド・ピニャールという夏でも涼しい風光明媚のリゾート地。パラナピアカーバから片道4時間ほどのその町のベーシック・インカム支持者たちと交流し、町長にもインタビュー。…ベーシック・インカム推進の支持者たちは、まずは、〇歳児から支給を開始し、だんだんと広げていこう、という提案。農機具店の若い経営者でもある町長は、とにかく、国の予算措置を待ちたいと、いささか及び腰。町を流れる美しい川を最新式のセメントで固めないやり方で護岸工事したり、町を一望できる展望台を作ったり、やり手の町長。1年前の国際学会の帰りに訪問したときには、日系人会の会長さんが、「いままでの市長は、なにもせずに盗むばかりだけど、この人はやり手で信頼できる人。こんなしつかりやる市長は、初めて。」と太鼓判の

人だ。ブルーナたちも、この町の条例ができるときには、足しげく通い支援。今でも、やり手の町長に自分たちのプロジェクトの効果を示しながら、側面支援。…そう、カチンガ・ベリョのプロジェクトは、ブラジル全土が注視しているのだ。

<権力を取らずに世界を変える！>

軍事独裁を批判する民主化運動の中で登場した与党労働党は、ベーシック・インカム法を成立させたとはいうものの、実現に真剣な政治家は少数派だという。社会運動団体の中では、土地なし農民の土地占拠運動を応援してきたカトリック司教会議が、堅固な支持者だとか。しかし大地主たちの暴力と対峙してきたその土地占拠運動も、活動家の一部の腐敗問題などで、若干混乱気味という。マルコスたちは、新しくできた大統領向けの請願制度を利用してベーシック・インカム法の実現を迫ってみたが、逆に、身の危険を感じて政治運動を断念したという。与党内部にも混乱があり、市長の暗殺事件なども絶えない。

『権力を取らずに世界を変える』とは、資本主義の無残を拒否しつつ、社会主義をめざす国家権力の奪取も腐敗への道として拒否する、メキシコに住む哲学者ジョン・ホロウェイの著書の題名だ。それは、ブルーナやマルコスたちのやっていることともぴったり。権力の集中を防ぐには、徹底的な分割しかない。分割されたひとりひとりの力が、うまくシンクロすれば、いつのまにか世界が変わっちゃったりして。 (2011年11月25日)